

A city where people live and create together.

～ 共存・共生・共創 ～

日本遺産認定



薩摩の武士が生きた町
～ 武家屋敷群「麓」を歩く～



勇猛果敢な薩摩武士を育んだ地、鹿児島。江戸時代、薩摩藩は、外敵からの攻撃に備え、本城である鹿児島城を中心とし、県内各地に外城（とじょう）と配置し、武士団を住まわせていました。

これは外城制度（とじょうせいど）と呼ばれ、薩摩藩独自の体制でした。

現在、鹿児島市の鹿児島城跡を中心に、外城の中心地である下記のような麓（ふもと）と呼ばれる武家屋敷群が、県内各地に数多く残されています。

県内各地、その数なんと118箇所！

エリア毎に巡るツアーの中で、麓研究の第一人者の講演や鹿児島まち歩きのスペシャリストによる解説をお聴きいただけます。

鹿児島以外では絶対に体験できない特別な時間をお過ごしください。



城をもって
城とせず
人をもって
城となす



© K. P. V.

薩摩藩外城制度のかなめ鹿児島城（御楼門）

天守のない、一見“華やかさ”に欠けた城ですが、「城をもって守りと成さず、人をもって城と成す」という薩摩独自の思想によって作られた城でした。

令和2年に147年ぶりに御楼門が復元され、令和5年3月に鹿児島城跡は国の史跡に指定されました。



北薩摩の麓を巡る

1. 出水麓（出水市） 肥後藩との国境に置かれた最大の麓

肥後藩（現在の熊本県）との藩境を守るため、藩内でも強い武士たちを住まわせていました。

その町割は400年前からほとんど変わらず、歴史を感じることができます。

2. 入来麓（薩摩川内市） 山と川に抱かれた中近世の麓

薩摩藩随一の堅城（山城）である清色城を中心に、玉石垣が特徴的な武家屋敷が残る地域です。茅葺の門のある武家屋敷も他では見られない特徴です。敵が攻め入ったときの工夫が施された地域は見ごたえ十分です。

3. 蒲生麓（始良市） 日本一の巨樹“大クス”が見守る麓

蒲生八幡神社の境内にそびえ立つ、日本一の大クスが印象的で、今も美しく機能的な町割りが残されており。

大隅の麓を巡る

4. 垂水麓（垂水市）

格子状の区画が広がる格式高い麓

日本遺産に認定されている11の麓の中で唯一島津一門家の私領であり、御仮屋を中心とした武士集落の通りを活用して現在の住宅地となっている。

※島津一門家（加治木・重富・垂水・今和泉）

5. 高山麓（肝属郡） サムライの技が残る麓

島津の直轄下として地頭が置かれ島津藩の外城の一つとなりました。

四十九所神社は、900年近い歴史があるとされる流鏝馬が奉納される事で有名。

6. 志布志麓（志布志市） 国指定史跡志布志城のある麓

太平洋を活かした貿易による富をもたらす志布志の港を有する事から群雄割拠日であり海運の拠点として栄えました。

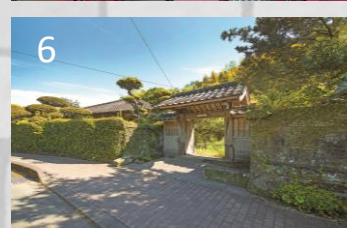
南薩摩の麓を巡る



7. 知覧麓（南九州市） 旧街道沿いに続く優美な麓

国の名勝に指定された7つの庭園を含み、伝統的建造物群保存地区に指定されている美しい武家屋敷群です。

通りからは遠くに望む母ヶ岳を中心に統一された景観は“薩摩の小京都”ともいわれています。



<お問合せ>

公益財団法人 鹿児島観光コンベンション協会 DMO戦略部MICE誘致課
住所：〒890-0053 鹿児島県鹿児島市中央町10番地（キャンセビル7階）
TEL：099-286-4700

所要時間は麓の場所により異なります。MAX・20名程度